



長崎大学名誉教授

高實 康稔

Takazane Yasunori

国際平和都市の品格



フランス政府より「學術功勞勲章(シュヴァリエ)」を受章(2006年7月) 左は文化参事官ムキエリ氏

私

は在職中の1995年以来、岡まさはる記念長崎平和資料館(2003年、NPO法人格取得)の理事長を務めています。その関係もあって、被爆者の証言によるドキュメンタリー・ビデオの製作に取り組んでいるフランス人ジャーナリストの依頼を受けて、長崎在住の中国人被爆者(83歳)を紹介し、先日一緒に証言を聴く機会を得ました。戦時中、中国人は敵国人という立場にあり、長崎でも相当つらい思いをしたのではないかと思っていたのですが、証言者によれば、盧溝橋事件後しばらくの間は国民党員の強制収容、強制送還といった言葉の動きもあ

たが、一般市民は戦争前と変わらず親切だった。やはり長崎は中国人と接してきた長い歴史があるからでしょう。「このことでした。私は認識を改めるとともに、ふと中国人

留学生たちのことが脳裏をよぎりました。彼らも長崎の人は外国人に親切だと言います。しかし、彼らがこの長崎で暮らし易い生活を送っているかといえば、そうは言えないと思います。私は授業料免除申請書に添える指導教員の同意書の作成に当たって、彼らの生活状況を聴取しながら、しばしばその困窮度に絶句しました。困窮の最大の要因は何といつても賃貸家賃の負担が重すぎることにあります。

若き日のフランス留生活を時折懐かしく思い出します。留学とは勉強や資格が主目的だとしても、長期間であれば尚更のこと、滞在期間中に得られる実にさまざまな体験ほど貴重なものはないでしょう。私の場合、フランスが教えてくれたというよりも温かく迎え入れてくれたお陰で得られた日常

プロフィール 1939年生まれ。山口市出身。69年、九州大学大学院文学研究科仏語仏文学専攻博士課程中退、長崎大学教養部講師赴任(フランス語)。71年、フランス政府招聘研修員としてポー大学、グルノーブル大学に留学の後、私費でパリ大学に延長留学し、翌72年帰国。93年、同教養部教授。95年、「岡まさはる記念長崎平和資料館」を有志とともに設立。97年、教養部改組に伴い環境科学部教授(異文化交流論)に就任。2005年、定年退職。2006年、フランス政府より「學術功勞勲章(シュヴァリエ)」を受章。

的な体験さらにはアジア人を含む多彩な国々の人々とも交流できた経験がその後の人生にどれほど有益であったか知れません。忘れえぬ人々の表情や数々の場面は一生の宝です。他のフランス語教員と共に学生を募集してヨーロッパ旅行をしたり、授業中に留学を勧めた所以ですが、留学の成果は私の経験からみても受け入れ側の態勢に大きく左右されると言っても過言ではないでしょう。その点で長崎は人間的にも歴史的にも受け入れの好条件を備えている反面、住宅事情では残念ながら留学生を苦しめている現実を否定できません。

私が留学したころ(70年代初頭)、日欧の経済格差は甚大でしたがフランスは短期や

長期の留学生を受け入れる施設と優遇策を国も都市も用意していました。学生や研究者というだけで世間も羨むほど優遇されていたのです。それは相互交流による受け入れ側の多様なメリットも十分考慮した上でのことで、現代の我が国にも当てはまるメリットに他なりません。

今や世界有数の国民生産力を持つ日本が遠い昔のフランスにも劣る留学生居住施設しか提供していない現実。文化や価値観の相違ではすまされないものを感じます。せめても長崎は真の国際平和都市として、現状を克服するための改善策を積極的に打ってほしいと願わずにはいられません。

岡まさはる記念
長崎平和資料館

